



富士川クラフトパーク

# かけはし

第192号  
2024年7月発行

発行：峡南教育事務所  
教育支援スタッフ（地域教育担当）

南巨摩郡富士川町鯉沢771-2  
TEL:0556-22-8154  
FAX:0556-22-8144

HPでも御覧になれます。  
<https://www.pref.yamanashi.jp/>



南巨摩合同庁舎(合庁)

## 令和6年度 峡南地域教育推進連絡協議会 (地推協) 第一回理事会・総会開催

### 令和6年度理事会・総会

六月三日(月)南巨摩合同庁舎で理事会、七月五日(金)身延町総合文化会館ホールで総会が行われました。令和五年度の事業・決算報告、令和六年度の新役員や事業計画・予算等について慎重な審議が行われ、承認されました。



保坂 文彦 会長

「地推協」は、子どもは地域で育てる」をスローガンに、前号でも解説した三つの方針に基づいて活動する組織です。異種連携や地域関連の事業等を幅広く推進する母体となっております。地推協は、地域の連携強化や学習機会の充実を図る中で望ましい教育環境・社会環境作りを目指し、教育に関する各種講演会の開催、地域教育情報誌「かけはし」や教育相談リーフレットの発行など、様々な活動を行っている峡南地域最大の協議会です。

### 令和6年度地推協正副会長(敬称略)

#### 会長

保坂 文彦 (峡南地区教育委員会連合会 会長)

#### 副会長

望月 重美 (峡南地区教育委員会連合会 副会長)

久本 雅俊 (峡南地区教育委員会連合会 副会長)

小林 太郎 (峡南地区高等学校3校 校長代表)

依田 貴司 (峡南PTA協議会 会長)

す。今年度も保坂文彦新会長を中心に、峡南地域の子どもたちの健やかな成長・発達に貢献し峡南地域を支えていきたいと考えています。

### 目次

地推協理事会・総会 人権講演会	1
ことぶき勤学院だより 身延山散策、地域学習 地域貢献、平和への想い	2
山梨県水防訓練 富士川町15周年記念講演 富士川町育成会	3
思春期体験学習 (増穂中学校)	4
大野山保育園 田植え体験と農園での活動	



身延町立図書館

峡南地域 人権講演会  
日本学校教育相談学会  
山梨県支部長 公認心理師  
内藤 雅人氏

地推協の総会に続き、「子どもたちの心をどう育てるか」と愛着障害と発達障害の理解とその支援」というテーマで、身延町総合文化会館ホールにおいて、内藤雅人氏に講演をいただきました。



心理学において、特に幼児期までの子どもと育見する側との間に形成される母子関係を中心とした情緒的な結びつきという意味で使われています。また、愛着障害とは、乳幼児期の虐待やネグレクトにより、保護者との安定した愛着が絶たれたことで引き起こされる障害を言います。愛着障害は病名ではなく心理学用語として使用されています。

### 峡南地域教育フォーラムのご案内

8月21日(水) 14:00~受付  
身延町総合文化会館(ホール)

#### ○講演

『山梨から世界を目指した  
宇宙エンジニア』

元JAXA宇宙教育指導者  
宮川 広氏

日常の中で問題を起こす子どもは、発達障害が疑われますが、愛着を形成し直すことで改善することがあります。教育現場では発達障害と誤解されることが多いのです。また大事なことは子どもたちだけではなく、育てている保護者のケアも忘れないことです。感想の中には「モヤモヤしていたことがすっきりした」「愛着障害についてよくわかった」「親でなくてもできることがある」「希望が見えました」など多くの前向きな言葉がありました。

日に日に暑くなってきました。いよいよ夏本番です！感染症対策と共に、熱中症対策も忘れずに主体的に活動しましょう。公園等で軽く運動した後は、図書館など涼しい場所でも見ながら過ごしましょう。

# ことぶき勸学院だより

〜地域を知る・地域貢献〜

ことぶき勸学院では、様々な学びの中に、「地域を知る」、「地域学習貢献」といった講座があり、峡南教室では毎年、一年生が身延山(久遠寺)探訪と一、二年生合同で富士川クラフトパーク内のバラの摘花作業を行っています。

## 身延山探訪(一年生)

五月一六日(火)、小雨の中「地域を知る活動」として身延山探訪が行われ、一年生十三名が参加しました。三班に分かれ、御廟所・御草庵跡・三門・本堂・祖師堂といった様々な場所を見学しました。身延町ボランティアガイドの方々の説明に熱心に耳を傾けるとともに、疑問に思ったことは積極的に質問し、メモを取るなど充実した時間を過ごすことができました。また、三門の楼上の内陣には、釈迦如来像と十六羅漢像が安置され、毎月一六日にだけ行われる御開帳の見学を行いました。普段は目にすることができない迫力ある姿を拝見することができました。



感想の中には、



感想の中には、

「何回来ても学ぶことがいっぱい。新たな発見がありました。個人的にまた来てみたい。」といったものが多く、身延山の魅力、日蓮聖人の偉大さを改めて感じることができました。さらに雨が降ったことにより、御廟所や御草庵跡の苔がとても鮮やかな緑色で、いつもより感動しました。



## 峡南地域学習(二年生)

### 峡南地域で活躍する皆さんの話

五月二一日(火)合庁内の大会議室で「森の学び舎」顧問の片田駿三さんと峡南地域に移住して活動をしている五名の方々のお話を聞きました。過日、山梨日日新聞に、今後三十年間で峡南地域の四町が消滅の可能性があると掲載されましたが、このような問題は、都市部以外の全国各地で起こっている大きな問題です。そのような中、他の地域から峡南地域の環境や住民の人柄に魅力を感じて移住し、新しいことを始めている方の話を聞かせていただき、勸学



院の生徒の皆さんも、地元ではない方々が峡南地域の素晴らしさを語り、盛り上げていただいていることをとてもありがたく感じ、喜んでいました。

## 富士川クラフトパーク

### バラの摘花作業(一・二年生合同)

六月七日(金)、地域貢献活動の一環として、一・二年生四十名が参加し、富士川クラフトパーク内のバラ園の摘花作業を行いました。始めに、作業を行う場所や摘花の仕方などを、「山梨ガーデン」の方々に教わり、学年ごとに分かれて作業を行いました。参加した生徒は、普段からご家庭で庭木の手入れを行っている方や、現在もボランティアとして富士川クラフトパークで働いているといったベテランの方、今一回が初めてという方まで様々でしたが、一枝一枝丁寧にさみを入れて作業を行いました。暑い中での作業だったので、水分と休憩を取りながら、みんなで協力して摘花作業を行いました。一時間三〇分程度の活動でしたが、作業前と後では、見違えるような景観になり、参加者全員、やって良かったという充実感に満たされていました。



## 勸学院卒業生(第三六期生)

### 朗読でつなぐ平和への想い

六月二日(日)小雨の中、身延町常葉の常幸院本堂にて「平和を考える学習会」が開かれました。この会の主催である高野先生が、昨年の十月末の勸学院祭で行った三六期生の発表を指導していただいた御縁もあり、今回、沖縄戦についての朗読劇を行うことになりました。四月になり、何度か合庁に集まり、音楽指導の中先生の御協力を受け、練習をしてきました。当日は、多くの方々が参加し、山梨での戦争体験についての話を聞きました。戦後七十九年になり、勸学院の皆さんも直接戦争を体験した人はいないけれども、父母から聞いたこと、おじさんが沖縄戦に参加していたことなどをそれぞれ話を聞いて、戦争について忘れることがないよう語り継いでいくことが大切であると強く感じました。そのような想いの詰まった三六期生の皆さんの朗読劇は素晴らしく、最後の「島唄」は非常に心に残るものになりました。日本だけではなく世界が平和になるよう願うばかりです。ことぶき勸学院では、決められた授業だけではなく、自分たちで学んだことを広げていくような自主的活動も行っています。



# 山梨県水防訓練

「洪水から守ろうみんなの地域」

五月二六日(日)富士川水辺プラザにおいて、山梨県水防本部と富士川町水防本部が主催の水防訓練が開催されました。訓練には、富士川町消防団、消防署・警察、赤十字奉仕団、建設業協会など水防関係の各機関が参加し、協力して訓練を行いました。水防訓練は毎年、山梨県内で行う大きな行事であり、今年度は、峡南地域の富士川町で行われました。近年、温暖化等による気候変動により大雨による河川の氾濫や土砂崩れなどの大きな災害が起こっております。これから出水期を迎え、夏から秋にかけて、台風やゲリラ豪雨等、山梨県でも大きな災害がいつ起こるかわかりません。

**\*破壊防止作業訓練**



開会式



表むしろ張り工法



積み土の工法



\* 救護訓練

\* 埋没車両からの救出訓練  
水難救助合同訓練



\* 河川応急対策訓練

峡南地域は、地形が急峻で地質が脆弱なため、日頃からの訓練や準備が欠かせない地域であると考えられます。今回は、防災の三助「自助・共助・公助」の公助を中心とした訓練でした。このような機会を通して、人ごととは思わずに、個人や地域住民の防災活動の啓発になればと思います。災害はいつ起こるかわかりませんが、日頃の準備「もしかし」が大切です。



水上人命救助



人命救助

## 富士川町 町制施行 十五周年記念事業

今年度、富士川町町制施行十五周年を記念して大法師桜祭りを皮切りに六月一日に、富士川町魅力発信アンバサダーの秋野暢子さんによる「元気にあきらめない」という演題での講演会と六月三〇日に、同じくアンバサダーの柳家三師匠を主とした「富士川町落語まつり」が開催されました。



富士川町制施行15周年記念事業  
講演会 元気にあきらめない

秋野暢子さんは、二年前に頸部食道がんを患われ、一年間の闘病期間を経て、芸能活動を再開しました。

富士川町在住の親しいご友人が、望月町長の御親戚という縁で、富士川町魅力発信アンバサダーに就任されました。講演では芸能界での話など会場が笑いに包まれたとても楽しい時間を過ごすことができました。

また落語家の柳家三三師匠は、以前に古典落語「鵜沢」を披露され、その後町民有志が「鵜沢三三会」を設立したご縁で富士川町魅力発信アンバサダーに就任され、今回の



落語まつりが開催されました。他の演者に、峡南地区出身(南部町)の柳亭市松さんも出演しました。来場者は、生で見る古典落語をとても楽しんでいました。

**《今後の記念行事の予定》**

八月四日(日) 純烈コンサート  
八月二四日(土) 富士川町出身小説家 神永学 講演会  
十月二七日(日) 山車巡行祭り  
友好都市交流 茨城県大洗町  
令和七年三月八日(土)  
町制施行一五周年記念式典

## 富士川町育成会 球技大会

六月一六日(日)に鵜沢小学校グラウンドにて富士川町の子どもたちがグラウンドゴルフを行いました。コロナ禍を経て、地域のつながりが少なくなっている中、このような行事が古屋教育長をはじめ生涯学習課の皆さんの協力のもと行われたことは、とても意義のあることだと感じました。参加した子どもたちの多くはグラウンドゴルフを初めて体験し、育成会役員の方や地域の方から指導を受けながら楽しんでいました。



思春期体験学習(増穂中学校三年生)

六月一〇日(月) 増穂中学校の三年生八五名が南アルプス市で助産師・思春期保健相談士として働く中込さん、富士川町役場子育て支援課の横内さん、飯田さんから①妊娠について②妊婦さんへのインタビュー③子どもの成長と発達④育児中のママにインタビュー⑤妊婦体験・赤ちゃん人形抱っこ体験⑥命の安全教育についてクラスごとに学びました。最初



はお互い緊張しているようでしたが、妊婦さんへの質問や赤ちゃんを見て、「かわいい」「プニプニしてる」など笑顔が増え、楽しそうに活動していました。さらに妊婦体験を通して、日常の何気ない動作が、お腹が大きくなると本当に大変だと実感したようでした。生徒の感想文の中に、妊婦さんの大変さや赤ちゃんが生まれて落ち着くまでの苦労話を聞き、親への感謝の言葉がたくさん見られました。

また、命の安全教室では、自分が被害者にも加害者にもならないことはもちろん、傍観者にもならないように具体的な例を通して学びました。ちょっとした

言動が人を傷つけてしまったり、性被害の現場に居合わせた場合の対処法などこれから社会に出て行くための知識を学びました。「少子化」「子育て支援」「LGBTQ」「命の安全教育」等の言葉が様々な場面で取り上げられています。子供から成人になっていく思春期と言われる時期に、赤ちゃんや命について学び、考えることはとても重要なことです。一人一人が大切な存在であり、自分を取り巻く周りの人たちも大切に、そのような人が増えてくれることを願います。最後に生徒の感想から

【思春期体験学習を終えて命の大切さを学ぶことができた。今ある自分の命は当たり前前にある命ではないと感じた。自分を生んでくれた親、育ててくれた人、支えてくれた人たちに感謝しながら生きていきたいと思った。妊婦さんは、お腹の中の赤ちゃんに配慮して

歩いたりしたときには育児の大変なこと以上に喜びを味わうことができること知った。周りの支えてくれていた人たちに感謝しながら、自分も支える存在になりたい。】

大野山保育園(身延町) 『田植え体験』・『農園での活動』

平成二四年から保育園近くの地域ボランティアの望月さんの田んぼを借りして、餅米を栽培しています。田植えの一週間前に子どもたちが田んぼで泥遊びをしながら田んぼの中を耕し、かき回して田植えの準備をします。当日は、年長さん六名が餅米の苗を丁寧に植えていきました。田んぼの水もほどよい冷たさで、楽しそうに田植えをしていました。このまま順調に育っていけば、十月に刈り入れをして十二月に餅つき会を行う予定です。また田んぼが保育園から少し離れているため、園内に一人ひとりのバケツを準備して、田んぼから泥を持ってきて、同じ状態で苗を植えます。そうすることで、田んぼとバケツ苗の成長の違いを観察できます。どのような違いが出るのか、とても楽しみです。



また大野山保育園では、以前から食育に力を入れており、特に三年前からは近くの畑を借り、愛(め)でる畑と名付け、様々な野菜を育てています。園庭、裏山に次ぐ第三の遊び場として園児が自由に活動できる場であるように心がけているそうです。土の中にできる野菜、外にできる野菜、つるにできる野菜など、子どもたちが関心を持てるような環境づくりが行われています。「それぞれの季節によって成長した野菜を調理室へ届け、給食で食べる。『食』というものを苗植えから収穫、食べるという一連の流れとして体験する。」このような活動を通して、園児の食に対する意識が少し変わったように感じます。さらにこの取り組みには、もう一つの目的があります。それは地域貢献です。耕作放棄地をお借りして、職員全員で開墾して現在は保護者、祖父母、地域の方々が集える場所になりました。身延町でも少子化・過疎化が進んでいますが大野山保育園では地域と連携した共同養育が進んでいます。四月には、畑につながる道を保護者と共に整備をして、休憩時にはお茶を飲みながらお父さん、お母さんとそれぞれの子育てについて話したりして過ごしたそうです。保育園を通して地域とつながる、すばらしい取り組みだと思います。いずれ園児たちが身延町を盛り上げてくれる大人になることを願っています。



峡南地区の多くの保・幼・小中学校でもこのような農業体験や地域交流が行われていると思います。ぜひ、多くの方が近くの園・所や学校での行事や地域ボランティアに協力していただければと思います。地域の子どもたちを地域全体で育てることが、地推協(峡南地域教育推進連絡協議会)の大きな目的の一つです。